

勸善懲惡 錦面圖解

第三十話

投書

編輯時習會

初らざる行ひの聞てもさきよりの大波天満辺の
 一商人の手代ひ取ふゆき小何方かて五円札を
 受取て歸り支配人は差出まよ是ハ贖札と
 いふ大さは驚きさ不調法をつくのハんとて
 其贖札を高麗橋下目岡田清藏
 へ印紙を買持行り折る
 岡田の主人留主まで婦人の事へ
 何心なく贖札を受取りりしが
 カ手代へまぬらると悦びて
 家へ歸りて朋輩は斯々
 告るを主人洩き聞て大い
 怒り贖札と考りて是を
 用ふる人をおしいるぎに
 左様の不人情多事をす
 以の外の事へ速に岡田式へ詫て取戻し來はと
 言せよ手代その理は伏し岡田行り又岡田も主人
 歸りて留主中小受取る金札の贖札を見ても援を物
 人手の難義もあつて出來るもの
 こと速に別なき捨てる打つカ手代まで
 主人の口上を述べ厚く詫て正札五円を出せよ
 岡田式是を受て贖札を受取る我方の
 誤り既に如斯き事より替金不及といふ
 手代感伏し家へ歸り主人かくと告る小主人
 早速岡田來り手代の誤りを謝して替金を出せども
 岡田式はさかたを押し合終つて双方半分の損と定り
 岡田式は金二円半多き返して我實小主人の心づか感心なりあり



禹圖
 びん

出版所

本町四丁目
 藤井時習會